

隙間に営巣、ふんで発電効率低下…

太陽光パネルにハト問題



太陽光パネルの下から見つかったハトの巣。ひなや卵も見える
—藤枝市内（エネジン提供）

県内住宅トラブル増加

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度の定着で、一般住宅にも太陽光パネルの設置が進むのに伴い、ハトによるトラブルが増えている。いったん設置すると対策が施しにくいケースもあり、設置業者は「事前の予防措置が必要」と注意を呼び掛ける。

（浜松総局・山本淳樹）

設置前に予防、業者推奨

「以前から業界の困り事になっている」。そう語る。同社の場合、太陽光発電システムを手掛けるエネジン（浜

松市中区）の担当者は、住宅用の太陽光パネルは屋根瓦などに据え付けられたフレームの上に設置する。パネルと瓦の間にできた隙間にハトが入り込んで巣を作

った。最大の害はふん。近隣への迷惑になるほか、パネル表面が汚れると発電効率が下がる。また、パネル下を動き回ることによってケーブルの損傷などにつながる恐れもある。

エネジンは昨年、網状の金属板で隙間をふさぐ対策工法を紹介している。ほかにも、ネットを張るなどの予防策をとる業者もある。ただ、設置状況によっては費用が高額になるという。担当者は「設置済みのパネルを全て外さなければ施工できないケースもある。新設時に対応して

おく方がいい」とアドバイスする。県エネルギー政策課のまとめによると、固定価格買い取り制度で認定された県内の太陽

光発電設備（10時未済）は、昨年9月末時点で5万2335件。エネジンの担当者は「家の軒先のふんを見て初めてハトに気付くこともある。トラブルはこれからは増えるのではないか」と話す。